

## 多機関連携により在宅就業に至った難病の方への支援② ～事例から在宅就業支援の現状と課題を考察する～

○鈴木 千恵子（就労移行支援事業所Do-will）  
小林 國明（神奈川県リハビリテーション病院 職能科 職業指導員）  
横山 修（神奈川県リハビリテーション病院リハ科）  
織田 彰（港北公共職業安定所）  
白戸 順一（港北公共職業安定所）  
横浜市総合リハビリテーションセンター（地域リハビリテーション部 地域支援課 作業療法士  
地域リハビリテーション部 研究開発課 工学技師  
自立支援部 就労支援課 職業指導員）

### 1 はじめに

就労移行支援事業所Do-willでは、在宅就業という新しい働き方が通勤困難な重度身体障がい者の可能性を広げ自立に繋がると考え、支援機関との連携を図りながら積極的に推進している。

特に今回の医療機関、相談支援機関、公共職業安定所との多機関連携による支援が功を奏した事例として経緯を振り返ることで、在宅就業支援の現状と課題について、就労移行支援機関の立場で考察を行いたい。

### 2 事例の概要

就業支援に関し、神奈川県リハビリテーション病院職能科から相談をいただき、即座に横浜市総合リハビリテーションセンターに出向きTさんを含め各職業指導員の4名で面談を行った。

発症から現在に至る医療的経緯、自宅での生活及びPC環境、ヘルパー利用体制の調整などを関係者で事前に話し合うことで状況把握を深めることができた。関連機関が協力して就労移行支援事業所Do-willの利用に必要な事項を準備し、スムーズにスタートすることができた。

### 3 就労移行支援事業所での支援経過

#### (1) ニーズに沿った研修内容

Tさんから利用に際し『CAD図面制作に大変関心があり、専門的知識と実践力を会得して在宅で継続的勤務をしたい。』との希望があった。丁度4月中旬に、建築CAD入門コースが開講することもあり、入所に関する準備を早急に進めた。

建築関係の勉強をしたことが無く用語も分からず不安を持っていたが、経験豊富な一級建築士の職業指導員が丁寧に研修することを伝え、不動産・建築関連の職種への就業を目指すこととなった。

#### (2) 日程や時間の組み立て

Tさんは長時間の座位や体調保持が困難で、疲労の蓄積を懸念されていたので、月曜・水曜・金曜の週3日、10時

～16時と健康面を優先した研修組み立てを考えた。体調が変化しやすいという事も考慮し、休憩時間の取り方や研修スタイル（ベッド上での作業）もご自身の判断に委ね、在宅勤務を想定したシミュレーションとなるよう心掛けた。

研修開始早々の4月末と10月末には血漿交換治療で1か月ずつの入院を要したが、タブレット兼用のPCで自習を続け問題なく復帰することができた。

#### (3) 独自E-ラーニングシステムの活用

就労移行支援事業所Do-willでは、在宅でも的確な技能習得や双方向の意思疎通が図れるように独自のE-ラーニングシステムを導入している。

Tさんの開始前には自宅訪問でPCに音声会話とインターネット経由パソコン遠隔操作ソフトのインストールやメール設定など、在宅で研修ができる環境を整えた。

始業時・終業前には指導員や仲間とのミーティングがあり、適宜の建築学レクチャーや遠隔指導などで滞りなく研修成果を高めることができた。

#### (4) 就職活動支援

Tさんの就職活動を進めるにあたり、在宅での週20時間勤務と種々の通院及び半年～1年に1回の入院は必須事項であった。その要件での就職先は皆無で、職業指導員とも相談しCAD図面制作の技術力を高め成果物で評価を得ることが、イレギュラーな勤務形態要件を乗り越える方策と考え更なる研修に励んだ。

### 4 就職プロジェクトによる在宅就業支援

#### (1) 公共職業安定所との連携による企業開拓

Tさんの活動状況を神奈川県リハビリテーション病院職能科に報告したところ職場開拓が必要と意見一致し、公共職業安定所を含めた『就職プロジェクト』を立ち上げ多機関連携を図る方向となった。職業指導員の小林氏が声掛けをしてくださり、本年1月に港北公共職業安定所専門援助部門統括職業指導官、雇用指導官、神奈川県リハビリテーション病院職能科の4名で協議する場を設けた。その際に在宅雇用の概要や現状について、今までの経験をもとにご説明

する機会を頂いた。

就労移行支援事業所Do-willと運営母体の特定非営利活動法人ウィーキャン世田谷では、今までに15企業、30数名が在宅勤務及び混合勤務で社会復帰している事例をお伝えした。大変に関心をお持ち頂き、企業への在宅雇用推進とマッチングを図る支援体制となる『就職プロジェクト』が発足した。

丁度、港北公共職業安定所に企業からCAD図面制作での障害者求人相談があり、早速にTさんと就職プロジェクト全員で会社へ訪問面談に伺った。非常に稀な難病でもあり疾病管理や体調保持に関しては神奈川県リハビリテーション病院職能科からご説明頂き、ご理解を得ると共に医療機関が関与されていることに安心感を持たれた。

### (2) フレキシブルな勤務形態と就業継続

体調を考慮し、Tさんが一番安定して働ける勤務形態を考えた時、月曜・水曜・金曜；9時～16時（6時間）＋木曜；9時～11時（2時間）週20時間の在宅勤務でご相談したところ、時間組み立ては自由で良いとのご理解を頂けた。これであればヘルパー体制を含めDo-will研修同様となり、体験に基づいた健康管理と生活環境の中で仕事との両立を成すことができ、就業継続への布石となった。

### (3) 就業に向けた実践研修と定着支援

Tさんは研修開始からの9か月（入院2か月）で建築CAD図面制作の基礎から3Dデザインまで着実に習得することができていた。自宅図面やリフォーム案では秀逸の出来栄えて職業指導員からも高評価を得ており、皆がCAD図面制作での就業を応援していた。

『企業面接ではぜひ業務対応力を見て頂きたい』との思いから、16枚の各種図面を選抜しご提示した。社長をはじめ、人事担当者、設計部課長とリーダーにご同席頂き、全員で制作図面を見ながら就職した際の業務についてご検討頂く機会となった。特に住宅リフォーム設計の技量を認めて頂き、在宅勤務でも問題ないとの判断を得ることができ就職が決定した。

会社使用のCADソフトが異なっていたことから早速、体験版で職業指導員と共に使用方法や実務を想定した特別研修を開始した。就職までの間に会社のCADソフトにも慣れることができ、不安感の払拭に役立った。

就業定着支援で何度か自宅訪問したが、『楽しく働いている』『益々モチベーションがアップしている』と瞳が輝いて、難病で苦勞していたTさんの心からの笑顔が喜びを物語っていた。入社後3か月程で十数件の図面を描いており、会社からは仕事への前向きな姿勢と日々成長している事を評価して頂くことができ、正社員登用となった。在宅での20時間勤務ながら社員と同等に待遇して頂き、会社の方々の丁寧なご指導のお蔭様と感謝していた。

## 5 考察

在宅就業の推進を活動とする就労移行支援機関の立場から考察を行う。今回の支援を多角度から振り返る。

### (1) 医療から就業（社会復帰）への道程

Tさんは障害者雇用のフルタイムで就業してきたが、病気の再発が増え障害が重くなり退職を余儀なくされた。医師とも相談し在宅就業の可能性を求め活動を始めたところで、横浜市総合リハビリテーションセンター、神奈川県リハビリテーション病院職能科、就労移行支援事業所Do-will、公共職業安定所へとバトンが渡り、就業に結びついた。

病院では治療やリハビリ訓練の相談はできるが、『暮らし方、働き方』の相談ができる場所は皆無に等しい。疾病と共に歩む障がい者の社会復帰には、多機関の協力体制が必要であると痛感し、仕組み作りを切に望んでいる。

### (2) 企業ニーズの把握とマッチング

本事例は、港北公共職業安定所雇用指導官が企業からの要望を直接に聴き取り、同時にTさんの状況やスキル把握など双方を繋ぐ役目を担って頂けたことが大きな要素となった。求人票による企業概要、履歴書での障がい者状況など紙媒体だけでは理解し得ない部分を補うことができた。

身体障がい者が会社見学や実習を希望しても受入れ企業がほとんど無く、面接のみでは理解を得ることが困難な状況が続いている。求人票に具体的な企業ニーズが掲載できず、誤認識や徒勞に終わるケースもままあるので、情報提供の改善を望みたい。

### (3) 在宅就業の課題

- ・ハローワークでも求人登録が非常に少ない。
- ・企業雇用ではフレキシブル勤務制度が希少である。
- ・業務内容や情報管理上の制約がある。
- ・労働時間の管理や不可視化の懸念がある。
- ・業務成果や人事考課が困難と思われる。

在宅雇用導入については、社内体制や就業規則などの問題で躊躇されている企業も多いので、促進に向けて多面からの広報をお願いしたい。

## 6 まとめ

Tさんは就業後も体調を崩すことなく張り切ってCAD図面制作に励んでおり、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現した好事例となっている。会社としても初めての障がい者在宅雇用であったが、Tさんの活躍事例が今後の新しい勤務体系にも役立つとの感想があった。

在宅就業は、障がい者に囚われず能力を最大限に発揮できる職場でもあり、当事者と企業双方に有益な働き方と考えられる。在宅就業への理解は未だ未だ浅いのが現状で、『働きたくても働けない』障がい者の就業可能性を広げる意味でも、ネットワークの重要度を再認識するに至った。